

生き物のすみか「スズメ」

監修：三上 修
北海道教育大学
函館校 教授

スズメ属に含まれる鳥は世界に28種。国内にはスズメともう一種類のニュウナイスズメもありますが、山中の森に巣を作り、警戒心も強いので、滅多に見ることはありません。



将来、絶滅危惧種に指定される可能性があるスズメ。 人と一緒に共存していく道はないのでしょうか。

私たちのすぐ近くで過ごしているスズメですが、減少していることが確認されています。NPO、NGO、環境省が共同して、2016年から2021年にかけて約20年ぶりに「全国鳥類繁殖分布調査」を実施しました。その結果、スズメの数は前回の調査から約3割以上も減少していることが判明し、このままの減少が続けば、将来的には、今のように身近な鳥ではなくなってしまう可能性がでてきました。

チュン、チュンと聞こえるスズメの鳴き声。体は茶色で、群れて屋根や電線に止まっています。好物はお米などイネ科で、公園などで人が残した菓子類も餌にします。巣は人目につかず、人が手を伸ばしても届かない高さのところに作ります。

●スズメの巣が見られる場所



▲樹木の穴

▲瓦屋根の隙間

▲電柱の腕金

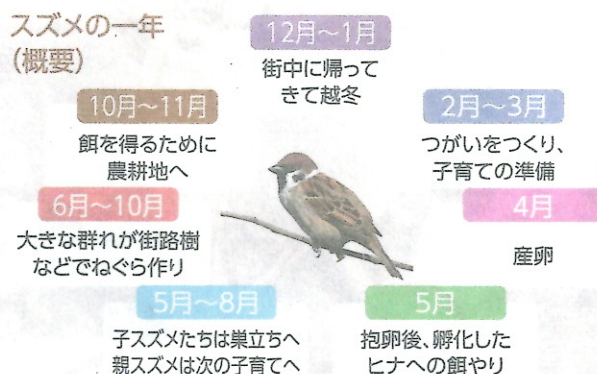
卵は一日に一個、数日かけて合計4～6個を産卵します。抱卵は主に母鳥がするのですが、最後の卵を産んでから全で一一緒に温めます。先に生まれた子が餌を独占してしまうのを防ぐためだと考えられています。卵を温めてから約2週間後にヒナが孵ると、幼い身体を温めたり、餌を探しに出かけたり、フンを運び出したり…など親鳥は大忙しです。

ヒナは2週間ぐらいで巣立ち、その後は親鳥と行動を共にして餌の取り方や何が危険なのかを教わったりします。ヒナが自分で行動できるようになると、親鳥の役目はそれで一段落しますが、すぐに次の巣づくり、子育てを始めるのです。そして夏の終わりまでに2回から3回の子育てをします。

一方、親から離れた子スズメたちは大きな群れを作り、

ヨシ原や街路樹でねぐらを作ります。そうして、秋になると田畑のある農村で稲などを食べて、越冬のための体づくりをします。寒さが厳しくなると徐々に街中に帰ってきて、つがいをつくり、翌春に子育てをします。

スズメの一年 (概要)



スズメは国内ではまだ1800万羽がいると推測されています。こんなにたくさんいるのに、なぜ今、減っているのでしょうか。一つはスズメが巣作りできるような木造住宅が減っていること。高気密の住宅には、瓦屋根や軒下のような隙間がなくなっています。二つ目は未舗装の空き地や農村での水田、畑地などが少なくなり、餌場が減ってきていること。三つ目は刈り取りから脱穀までを一度に行えるコンバインが普及して、落ちたお米をスズメが食べられる機会が減ったとも言われています。

スズメだけでなく、減少が心配されている生き物はたくさんいます。私たちはどうすればいいのでしょうか？ ずっと昔から私たちの生活の中にいたスズメがどんどん減っている状況に淋しさだけでなく危機感さえ感じます。